民主香川
定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
３丁目13－14
☎(087)834-7311

高松港を軍港にするな！

県庁前で緊急抗議行動

３月26日、明るい民主県政をきずく会香川県連絡会は県庁前で、国による高松港の特定利用港湾の指定に県が合意すると表明したことへの抗議行動をし、抗議文を県に提出しました。雨の中、約４０人が集まりました。

日本共産党のかし昭二県議は県が国のいいなりで、指定を受けることは戦争する国づくりに県民を巻き込むことになると述べ、「物流と経済の中心地の高松港を、陸上自衛隊善通寺基地第14旅団の出撃拠点として軍事利用するなどの軍事拠点化は戦場となる恐れもあり許されない」と強調。「自衛隊との災害時の連携強化や港湾予算の二つのメリットがあるから」といって、県民のいのちをてんびんにかけてはならない」と訴えました。

小早川加代子新日本婦人の会香川県本部会長や、明珍宗豊香川県商工団体連合会事務局長がリレートークし、抗議の声を上げました。

参加者は「反対署名や抗議ファクス、申し入れなど県民の反対の声が届いている状況でなぜ国と合意に至るのかがわからない」と県に伝えました。

フラワーデモ学習会

３月30日、高松市でフラワーデモ＠かがわは、アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（略称ｗａｍ）の渡辺美奈さんを招いて、終わらない暴力～女たちの戦争と平和～というテーマで講演会を行い約80人が参加しました。

ｗａｍは、日本で初めて戦時性暴力、とりわけ日本軍性奴隷制度（日本軍「慰安婦」制度）に焦点を当てた記録と活動の拠点で、日本軍「慰安婦」関連の公文書１７００点を公開しています。

渡辺氏は「アジア太平洋全域に広がった慰安婦制度は、日本軍の関与がなければ不可能だ」と強調しました。日本軍慰安婦として被害を受けた女性は真相究明や、事実の認知、責任者処罰、公式謝罪、賠償、歴史教育、慰霊碑建立などを求めていて、安倍政権が「強制性はなかった」と否定したことを挙げ、「安倍政権以後の日本の歴史修正主義へ、国連人権条約の様々な委員会からの勧告があったが、いまだに性暴力の不処罰が連鎖し、女性の権利が侵害されている」と指摘しました。

太鼓台

コンビニの雑誌コーナーは、外からもよく見えるガラス張り箇所にある。どの店舗も同じだ。雑誌類の並ぶコーナー前に起つ人物が外からよく見える空間であり、見宣人気度を誇示する為である。最近同コーナーに大人成人向けビニール本が復活したとの情報を耳にしたので調べてみた▼私の入った店舗にはその類の雑誌は見当たらず、『防衛政策の大転換、自衛隊はいかに日本を護るのか！自衛隊新戦力図鑑２０２４』が目に入った。敵基地攻撃能力保有のこともあり、カラー写真、図表も満載で、少々高価だが、購入し、目を通した▼冒頭の記事は“島嶼防衛の最前線令和５年度自衛隊統合演習０５ＪＸ”。２０２３年11月10日から20日にかけて、陸海空から人員３万８００人、車両３５００両、艦艇20隻、航空機２１０機が参加して実施した最大規模の演習。米軍からも１万人が参加。『４機のＦ15戦闘機が飛来！自衛隊初となる離島民間空港でのタッチ・アンド・ゴー』の見出しとともに、飛来したＦ15の大写しの写真。自衛隊基地の滑走路の一部でも破壊されれば航空戦力は無力化される。そこで民間空港の活用が必要となる。岡山空港や大分空港でも同様の訓練を実施するとある▼思うに、民間港湾施設も同様。高松港の特定利用港湾指定も同じこと。標的になることは必至。危ない。危ない。（も）

春の訪れとともに芽吹く蕗の薹…

３月の半ば過ぎ、標高５００ｍ余りの峠付近（四国中央市）でみつけました。

その日の夜は、ほろ苦く独特の風味を楽しませてもらいましたが意外と栄養価も高く、ビタミンやミネラルを豊富に含んでいるそうですよ。

丸亀「わかば祭り」

と　き：２０２４年４月２１日１０時～１４時３０分（荒天中止）
ところ：丸亀市大手町お城前芝生広場
会　費：５００円（会場内で使える５００円の金券と抽選券付き）
白川よう子党四国対策委員長と笠井亮衆議院議員が参加
主　催：日本共産党丸亀市委員会・党後援会
連絡先：笹井０９０－８９７２－９４７１

「人間の自由」と社会主義・共産主義

『資本論』を導きに志位さんが語る
オンラインゼミ　第三弾

講師：日本共産党中央委員会議長　志位和夫さん
日時：２０２４年４月２７日１４時～１７時（予定）
会場：香川県社会福祉総合センター６Ｆ第一研修室
☆日本民主青年同盟主催 視聴＆交流会 事前申し込み
日本共産党香川県委員会０８７-８３４-７３１１まで

これからの社会保障を考える

高齢化、人口減少、そして「大軍拡」の流れの中で　⑩

社会保障のあり方について考える会 準備会　藤井 明

前回明らかになったのは、「社会保障」とは、資本主義的な経済体制の下で様々な生活上の問題が「社会問題」として顕在化し、そこに「社会運動」が原動力として働いて成立するものだということでした。そこで次に、社会問題への対応形態としての「社会保障」が、資本主義社会の発展段階によってどのように変化して来たか、またそれぞれの時期の特徴はどのようなものであったのか等について、具体的に見て行くことにします。

資本主義社会の発展段階と社会問題への対応形態の変化、その概要

なお、今回使用する段階区分は以下の６通りとし、それぞれの時期の特徴を明らかにするなかで、「社会保障」の本質とそのあるべき姿について考えて行きたいと思います。

①資本の本源的蓄積期……弾圧立法から救貧法へ、②産業資本主義段階……救貧法の自由主義化、労働者の自主共済、そして慈善、③独占資本主義段階……社会保険、社会扶助の時代、④国家独占資本主義期……「ゆりかごから墓場まで」と言う考え方に代表されるような、生活問題に対する総合的な社会的対応としての「社会保障」の成立、⑤第二次世界大戦後の社会保障の発展、？新自由主義と社会保障。

資本の本源的蓄積期……弾圧立法から救貧法へ

この時代は、封建制から資本主義への過渡期にあたり、いち早く資本主義が発展した地域では、「囲い込み」によって農村を追われた貧民やギルドから転落させられた職人が都市周辺に集まって浮浪者となるなど、資本主義経済への移行に伴う「貧困」と「社会問題」が顕在化しました。支配層はこれに対して何らかの対応をせざるを得なくなったのですが、16世紀のイギリスで最初に現れたのは、実は、生活の保証とは似ても似つかぬものでした。それは、労働能力があるにもかかわらずブラブラするのは怠惰であり反逆罪だとして、鞭打ちや耳切り、焼きゴテで烙印をつけて奴隷にする、逃亡すれば死刑にするなど、浮浪者や乞食に対する一連の抑圧立法であり、マルクスをして「血の立法」といわしめた残虐な制度でした。

しかし、いくら血なまぐさい弾圧を加えても、自己責任で失業したわけでも怠惰の群れを抑えることは出来ず、中には集団化して抵抗する者も現れるなど社会不安が広がりました。そこでイギリスの支配階級は「救貧法」（１６０１年）を策定し、極貧層に限ってでしたが、貧困無職者に資材を与えて仕事をさせたり税金で障害者を救済したりすることを始めたのです。前後して他国でも同様の仕組みが作られて行きましたが、この「救貧法」が社会保障の最初の形態だと言えるでしょう。

※　紙幅の都合により、「産業資本主義段階」以降は次回からになります。